

ウィキペディアが めざす知識革命、 その光と陰

ウィキペディアは世界の人々の知的欲求を満たし、マスコミでしばしば流される迷妄やインチキな情報から正しい知識を守っている。しかしウィキペディアの記事はあくまで「調査の出発点（創始者ジミー・ウェールズ）」であることを肝に銘じよう。

愛知大学教授 時実象一

◎インターネット上の 百科事典

この2月21日、衆議院予算委員会で国土交通省所管の「国際建設技術協会」が同省から受注した報告書が攻撃的になった。細野議員（民主）は問題の報告書がウィキペディアからあちこち引用していることを指摘して、「学生のレポートでもそんなものを引用したら、だれが書いているかわからないんだから、教授はレポートを受付けないようなしろものですよ」と述べている。

もともと同議員も「新しいことばがでてきたときは、私もこれを引きます」と認めている。このようにインターネットを使う人でウィキペディアの世話になったことのない人はまずいないだろう。ウィキペディアはインターネット上の世界最大の無料の百科事典である。「Google」でも「Yahoo!」でも、何かのことば、たとえば「メタミドホス」や「ケータイ小説」で検索すると、上から5番目以内に「メタミドホス—Wikipedia」、「ケータイ小説—Wikipedia」と書かれているはずだ。それがウィキペディアである。たとえ

ば「ケータイ小説—Wikipedia」をクリックすると、ウィキペディアの「ケータイ小説」のページが開き、そこに



日本語版にはおよそ47万件もの記事が掲載されている（写真はウィキペディアより転載）

は「特徴」、「現状」、「賛否」、「有名人の意見」から「主なケータイ小説家」などの記載がある。さらには「脚注」として関連する雑誌記事なども紹介されている。ケータイ小説など読んだことのないビジネスマンや政治家でも、これに目を通せば人前で一席ぶつことができるというわけである。

学生はレポートや宿題をこなすためにウィキペディアを頻繁に利用しているし、先生も授業の準備のために使っている。ある米国の調査会社によれば、米国人の36%がウィキペディアを使っているとのことである。いまや世界中の誰もがウィキペディアの情報に頼っているといえる。

◎誰もが匿名で自由に編集

ウィキペディアの記事の件数は膨大である。2008年3月3日現在、ウィキペディア英語版には226万件、日本語版には47万2000件の記事が掲載されている。よく知られている紙の百科事典ブリタニカの記事数は12万件、日本で最大の平凡社百科事典の記事数は6万5000件であるから、ウィキペディアの記事数がどれだけ多いかわかる。これだけ件数があれば、自分の知りたい事柄が大抵見つかるというてよい。ウィキペディアは英語版や日本語版だけではない。世界で知られているほとんどの言語の版があり、記事件数は少ないが、ベンガル語（バングラデシュ）やスワヒリ語（アフリカ）などの版もある。

ではウィキペディアはどのように作られているのだろうか。私のところの学生も「便利だから使っているけど、誰が書いているのか不思議だった」といっている。実はウィキペディアは誰もが無料で使えるだけでなく、誰もが匿名で自由に書き込めるのである。ウィキペディアは何十万、何百万というボランティアの人々がそれぞれ自分の得

意なことを書く中でできあがっている。

しかもウィキペディアでは他の人が書いた記事に加筆したり、勝手に直すこともできる。このような加筆と修正を経て、だんだん良い記事になっていくのである。これまでの普通の百科事典の場合には、名の知れた専門家がひとりで書くのが当たり前だったが、ウィキペディアはそれとは正反対ということが出来る。

ウィキペディアはどのようにして生まれたのだろうか。ウィキペディアの創始者は米国のジミー（ジンプ）・ウエルズとされている。彼は無料で使えるインターネット上の百科事典を作りたくて、2000年にヌーペディアというプロジェクトを開始した。その時は、普通に誰でも考えるように「百科事典の記事は正確でなくてはいけない」と考え、投稿された記事を審査するプロセスを作成した。しかし、これが複雑でいつまでたっても100本程



ウィキペディア創始者のジミー・ウエルズ氏と筆者（右）

くなると思えられる。ただし、実際には何十万とある記事のうち、あまり人に読まれない記事ではそのような切磋琢磨がおこなわれず、品質が悪いまま残っている場合も多い。

度の記事しかできあがらなかった。そこで途方にくれていた時、一緒に仕事をしていたラリー・サンガーがウィキというソフトウェアのことを聞きこんできた。ウィキはウェブで使う「協同作業ソフトウェア」の一つで、みんな自由に文章を書き込んだり修正できる仕組みを持っている。そこでこれを使うことにして01年にウィキペディアを開始した。ウエルズは、始めてから2週間くらいは、とんでもない書き込みがあったり、「荒らし」が起きたりするのではないかと心配で夜もよく眠れなかったといっている。しかし実際にはそのようなことは起きず、記事数はたちまち1000本を超え、どんどん増えていったのである。

◎ウィキペディアは信頼できるか？

このようにだれでも勝手に書くことのできる記事の内容に信頼性はあるの

◎中傷記事や都合の悪い記事の書き換え

一方、誰でも書き込めて誰でも直すことのできるウィキペディアでは、ブリタニカのような伝統的百科事典では考えられないことも起こる。たとえば偽の記事、悪意のある記事や、自分に都合の悪い記述を書き変えたりする事件がおきている。

05年11月にニューヨークタイムズ紙は、ロバート・ケネディー元上院議員の補佐官であったジョン・シーゲンソラーについて、ケネディー兄弟の暗殺に関係があったかのような偽の経歴記事がウィキペディアに掲載されたと報道した。これは犯人も見つかったが「冗談でやった」と弁解している。日本では06年8月に楽天証券についての掲載記事の一部（システム障害が多発し、金融庁から業務改善命令を受け「た」などの記述）を楽天証券社員が

だろうか。05年12月に著名な学術雑誌「ネイチャー」の記者が、ウィキペディア（英語版）の記事と伝統ある百科事典ブリタニカの記事を比較する研究をおこなった。さまざまな分野から選んだ50のトピックスに関する記事を専門家に調べてもらったところ、回答のあった42トピックス中にウィキペディアが162件、ブリタニカが123件の誤りが見つかった。ネイチャーはこの結果から、専門家が書いたブリタニカと、匿名で誰が書いたかわからないウィキペディアの間でほぼ品質の違いはないと結論付けている。

なぜそのように正確な記事ができるのだろうか。あまいいな、不正確な記載があると、それに気づいた他の人がすぐに書き直し、また加筆していく。書き直しの理由があれば「ノート」で説明する。そこで執筆者同士の議論が行われ、内容が深まっていく。その繰り返しでどんどん記事の質がよ

削除したという事件が起きている。

07年夏にヴァージル・グリフィスという青年がウィキスキヤナーというソフトを開発した。ウィキペディアではもともと書き込んだ記録、書き換えた追加したりした記録がすべて残っている。このソフトを使うと、あるインターネットのアドレスからどの記事にどんな編集をしたかがすぐに一覧表で見られる。これを使って調べたところ、米政府のさまざまな部署が、自分たちに関係ある記事で都合の悪い文章を修正していたことが発覚した。日本でも総務省や文部科学省、宮内庁、厚生労働省のパソコンから自分たちに関連するページについてさまざまな書き込みがされたことが報道されている。これは政府による情報操作につながる可能性があり問題が多いが、同時にウィキペディアの影響力を政府官庁も無視できなくなっていることを証明している。ちなみにウィキペディアで

は自分についてのページを自分で編集することは好ましくないとしている。

◎問題化するウィキペディアの引用

07年3月、東京都大田区の自民党議員が海外出張の報告であるとして「大田区議会セーラム市親善訪問団行政視察報告」に「ポストン美術館」に関する記事を掲載した (<http://www.city.ofatokyo.jp/gikai/archive/18nenpo/files/18nenpo.pdf>) が、この記事の大部分がウィキペディアの「ポストン美術館」のコピーであることが判明して問題となった。

ウィキペディアに限らず、ウェブ上にある他人の文章を黙ってコピーして自分の原稿に貼り付ける（これをコピー・アンド・ペースト、略してコピーペと呼ぶ人が多い）ことは広く行われていると思われる。昔は人の文章を使うにしても、手で書き写さなくてはなら

な部科学省が公表した07年度教科書検定において、英語の教科書でウィキペディアに掲載されていた地図を引用したものが認められたとあった。英語の教科書であるということで、実害は少ないかもしれないが、教科書でウィキペディアを引用することを奨励する結果となり、極めて問題である。教科書会社も文部科学省も「引用」とは何かについての理解が欠けている。（なお、新聞記事では取材源を秘匿するために匿名情報を元に記事を書くこともあるが、それも十分裏をとってから記事にするのが普通である。それがないと06年に民主党の永田寿康議員がしくじった偽電子メール事件のようなことになる）。

ときぞね・そういち

1944年岡山県生まれ。東京大学理学部卒。東京大学理学系大学院修士課程修了。（株）東レエンジニア研究所、米国化学会（情報部門）などを経て愛知大学文学部教授。専門はウェブ情報や電子ジャーナル。著書に「情報検索の知識と技術」（共著）など多数。

ないので多少の手間がかかったが、今のコピーはまさに一瞬である。欧米の大学では、レポートで他人の文章を使う場合、どうすれば盗作にならないか、学生に教育している。簡単にいえば、他人の文章を使う場合は、それが引用だとわかるようにカッコに入れ、さらに出典を明記すればよいのである。出典を書かなかつたら、それが他人の文章か自分の文章か、読んだ人に区別が付かないので、盗作とみなされても仕方がない。欧米の多くの大学では学生の盗作を防ぐため検出用のプログラムを導入している。

それでは出典を示せばウィキペディアの文章も引用していいのだろうか。07年3月、米国バーモント州ミドルベリー大学の日本史教授ニール・ウォルター氏は、学生の試験解答を見て、多くの学生が「島原の乱」についてまったく同一の誤った記述（「島原の乱はイエズス会が指導した」という記述）

このような考え方についてはウィキペディア自身が賛成している。ウィキペディアのスポークスマン、サンドラ・オルドネス氏は「学生はウィキペディアで見つけた情報については出典に当たって調査すべきである。ウィキペディアを引用することは好ましくない」と述べている（タイムズ・ヘラルド紙07年6月17日）。またウィキペディアで記事を書くときも、出典を明記するように推奨されている。出典のない文章は削除されてもやむをえない（さきほどの「ケータイ小説」の記事の先頭にも「出典」を付け加えるよう要望が書いてある）。

◎中立性と「編集合戦」

をしていることを知って愕然とした。それはウィキペディアにたまたま誤った記述があったのをすべての学生が引き写したのである。実際には島原の乱のときは日本のイエズス会は弾圧により壊滅しており、指導できるような状態ではなかった。この事件に怒ったウォルター氏は以後学生がウィキペディアから引用することを禁じている。

すなわち、ウィキペディアは誰でも書いたり直したりできるから、誤りが紛れ込むことは避けられない。しかも複数の人が匿名で書いているから、内容については無保証であり、鵜呑みにすることは危険である。細野議員のいうとおり、一般に匿名の記事を引用することは責任あるレポートや論文ではやってはいけないことである。先の国際建設技術協会の報告書を書いた人たちは、そうした基本的な常識もないということになる。最近報道されたところによれば（朝日3月26日朝刊）、文

みんなが勝手に書き、勝手に直す、という世界では時として紛争がおきる。ウィキペディアではいくつかの「原則」を作っており、その中でも特に重要なのが「中立的な視点 (Neutral Point of View: NPOV)」であり、記述するときに特定の観点からのみ記述してはいけないことになっている（先ほどの「ケータイ小説」の例にも「中立的な観点」について疑問があると書かれている）。しかし現実には「南京虐殺」や「靖国神社」など意見の分かれる政治的なトピックでは、何が「中立」かということも難しく、時に他人が書いたものを消してしまい、消されたほうはまた書きなおす、という「編集合戦」が起きることがある。意見の違いは執筆者の間の話し合いで解決することが基本であるが、編集合戦が始まる自主的解決は望めない。このような紛争の整理・解決にあたるのが「管理者」または「シスオプ (System

Operator」または「アドミン (Administrator)」と呼ばれる人たちである。シスオベたちはまったくのボランティアであり、経験あるウィキペディアン (ウィキペディアに投稿・編集をするひとたち) の中から互選で選ばれている。彼らは編集合戦に対してそれ以上の編集を禁止する「保護」措置をとることができる。また悪意を持った「荒らし」をおこなう執筆者には執筆禁止などの措置をとることができる。日本にはこのようなシスオベが数十人いるという。

「ウィキマニア」と呼ばれるウィキペディア仲間 (ウィキペディアン) の世界大会が毎年あるが、昨年は台湾の台北で開かれた。シスオベでなくても参加できるので筆者もでかけてみたが、参加者たちはほとんどが20〜30代の若者たちであった。

ウィキペディアには前述のようなさまざまな問題が指摘されている。また

ウィキペディアの記事をレポートや論文に引用することは許されないが、これが世界の人々の知的欲求を満たし、マスコミでしばしば流される迷妄やインチキな情報から正しい知識を守っていることも確かである。ウィキペディアを動かしているこれらの若者たちは、知識が増し、知識が広がれば、世界はよくなるとの信念で行動している。ウィキペディアの影響力がますます広がっている事実は、その努力が成果をあげていることを示している。

なお本稿を執筆するにあたっていろいろ助言をいただいたウィキペディアの方々に感謝いたします。

【参考文献およびサイト】

- (1) 衆議院TV <http://www.shugiintv.go.jp/>
- (2) ONLINE, July/August 2007, p. 6.
- (3) WikiScanner: <http://wikiscanner.virgili.gr/index.jsp>
- (4) ITmedia News, 2007/8/29, <http://www.itmedia.co.jp/news/articles/0708/29/news>

059.html

- (5) 中村英, 「ウィキペディアは『Web2.0』の旗手たり得るか1: 危うい『権威』の一人歩き」, 朝日総研リポート, 2007. 3, (2002), 17-31.
- (6) 中村英, 「ウィキペディアは『Web2.0』の旗手たり得るか2: 信頼性を保つために」, 朝日総研リポート, 2007. 4, (2003), 88-101.
- (7) 中村英, 「ウィキペディアは『Web2.0』の旗手たり得るか3: 創設者ウェールズが語る軌跡と将来」, 朝日総研リポート, 2007. 5, (2004), 92-103.
- (8) 中村英, 「ウィキペディアは『Web2.0』の旗手たり得るか4: バージニア工科大学銃乱射事件が教えるもの」, 朝日総研リポート, 2007. 6, (2005), 46-60.
- (9) 吉沢英明, 「ウィキペディア完全活用ガイド」, マックス, 2006. 12, 95 p.p. ■